

ひとり暮らし高齢者における市販惣菜の利用に及ぼす要因 山口女大家政 足立蓉子

〔目的〕 ひとり暮らし高齢者の在宅での食生活を支えている給食サービスと市販惣菜の利用に及ぼす要因の分析結果から、高齢者の食に対するニーズについて考察した。

〔方法〕 対象地域は山口県大島郡東和町。対象者は東和町伊保田地区の65歳以上でひとり暮らしの男女 147人、うち有効回答は 126人であり、回収率は 85.7%であった。調査は1994年の8月から9月の期間に、質問紙による個人面接法にて行った。

〔結果〕 ひとり暮らし高齢者の市販惣菜の利用状況では、50%以上が利用すると回答した。その内訳をみると揚げもの類、煮もの類が最も多く、酢のもの・あえもの類、サラダ類などが次にあげられた。市販惣菜の利用に及ぼす要因について数量化Ⅱ類による分析を行った結果は次のとおりである。利用に影響する第1の要因は「生きがい」であり、「ない」が利用を促進した。第2は「グループ活動」であり、「参加」が利用を促進した。第3は「性別」であり、「男」が利用を促進した。第4は「食事満足度」、第5は「規則正しい生活」、第6は「食費」であった。このようなことから、惣菜をよく利用するのはグループ活動などには参加しているが生きがいがなく、規則正しい生活をしていない男性、そして食事に不満は少なく、食費にはお金をかけたくない人たちと考えられる。前報¹⁾の毎日型給食サービスへのニーズとの比較から、ひとり暮らし高齢者の食生活を支える給食サービスと市販惣菜の利用に対する高齢者のニーズは異なることが示唆された。

1) 足立蓉子：家政誌，45, 909～917(1994)